

登録コード	E8265400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究						担当教員	松島 恒熙
英文授業名	Graduation Study						副担当	
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	①学術論文の作成方法を習得する。 ②卒業論文のテーマを自らの関心をもとに決定し、執筆することができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	③学術研究について批判的・創造的・ケア的に思考できる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生、多文化協働、キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	哲学・倫理学・教育哲学の分野における学術論文の基本的構造と手法を概観し、各自が研究テーマを設定し、論文執筆を進めていく。自身の研究を他者との対話によって深めていく共同性・共創性も養う。							
(5)授業計画	第 1 回：オリエンテーション、各自の進捗確認 第 2 回：研究テーマの設定 第 3 回：研究テーマの共有・先行研究の探索 第 4 回：先行研究のレビュー 第 5 回：研究計画の立て方 第 6 回：研究計画の作成 第 7 回：研究計画の修正 第 8 回：研究計画再検討 第 9 回：テーマの最終決定 第10回：論文の作法に関する再確認 第11回：文献研究や実践研究の方法論について復習 第12回：テーマに関連する理論的背景の復習 第13回：テーマに関する時事的な動向 第14回：論文の展開を構想 第15回：テーマの整理・分析 第16回：第16回を受けた考察 第17回：テーマの追加分析 第18回：中間報告会（コース単位で） 第19回：文章点検（事実整理の章） 第20回：文章点検（分析・考察の章） 第21回：文章点検（イントロダクションとまとめの章） 第22回：文章点検で浮かび上がった追加課題の確認 第23回：追加課題の分析結果報告 第24回：原稿チェック結果報告 第25回：最終推敲し、公式締切までに確実に提出 第26回：卒業研究抄録の作成 第27回：発表会リハーサル 第28回：卒業研究発表会（コース単位で） （最終回までに授業アンケートを実施） ※教育実習等での欠席者に対しては、適宜課題等での補講を実施する。							
(6)成績評価の方法	【1】卒業論文（60点）：達成目標①②③の到達度を測る 【2】取り組みの過程（20点）：達成目標①②③の到達度を測り向上させる 【3】最終報告会（20点）：達成目標①②③の到達度を測る ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(7)成績評価の基準	卒業論文、取り組みの過程、最終報告会について以下の通り評価する。 【卒業論文】 1. ～6. は、社会科教育コースの評価基準である。 1. 先行研究を踏まえているか（検索、収集、理解など） 2. 研究方法は適切か（データ収集・分析、フィールド、文献（論文、史料、資料）の扱い方など） 3. 独自性があるか（テーマ、問題設定、視点、発見、考察など） 4. 論旨は明確か（論理性、表現など） 5. 形式は整っているか（構成、分量、誤字・脱字、注、文献リストなど） 6. 研究倫理は守られているか（合法性、引用ルール、コピー禁止など）							

(7)成績評価の基準	【取り組みの過程】 (i) 進捗状況の定期的報告, (ii) 指定時間外でも必要に応じ質問・相談するなどの自主性, (iii) 他人の報告への関心(質問・意見), (iv) 卒業研究を通じた成長。 これらについて1つ優れていれば「水準にある」, 2つ優れていれば「やや上にある」, 3つ優れていれば「かなり上にある」, 4つ優れていれば「卓越している」 【最終報告会】 (i) 資料の適切さ, (ii) 報告時の態度(含時間厳守), (iii) 質疑応答, (iv) 他人の報告への関心(コース単位の場合、他研究室の報告も含める)。 これらについて1つ優れていれば「水準にある」, 2つ優れていれば「やや上にある」, 3つ優れていれば「かなり上にある」, 4つ優れていれば「卓越している」
(8)事前事後学習の内容	事前学習：授業計画をもとに、自身の研究テーマについて日常的に構想・執筆を進めること。 事後学習：関連文献等を用いながら日常的に構想・執筆を進めること。 この授業は225時間（含時間外）の学修を必要とする。
(9)履修上の注意	自身の研究テーマについて、学習仲間と自発的な議論・対話を行い、理解を深めておく。 一緒に哲学しましょう。
(10)質問、相談への対応及び連絡先	授業の前後やオフィスアワーにて対応する。matsuko@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	参考資料を配布します。
【参考文献】	適宜紹介します。